

令和5年度

埼玉県献血推進協議会

令和6年2月1日（木曜日）

午後5時～午後6時15分

埼玉県保健医療部薬務課

令和5年度 埼玉県献血推進協議会 議事録

発言者	内容
<p>司会 (渋沢副課長)</p>	<p>定刻になりましたので、ただ今から「令和5年度 埼玉県献血推進協議会」を開会させていただきます。</p> <p>本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>本協議会は、「埼玉県献血推進協議会要綱」第9条により、公開となっております。</p>
<p>司会</p>	<p>なお、本日の協議会に傍聴者及び報道関係者はおりませんことを御報告いたします。</p>
<p>司会</p>	<p>はじめに開会に当たりまして、表保健医療部長から、御挨拶を申し上げます。</p>
<p>保健医療部長</p>	<p>埼玉県保健医療部長の表でございます。</p> <p>「令和5年度 埼玉県献血推進協議会」の開催に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しいところ、御出席を賜りましてありがとうございます。</p> <p>また、本県の献血推進事業に、日頃から多大な御協力をいただいておりますことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。</p> <p>さて、埼玉県では、令和4年度に約24万人(239,357人)という大変多くの皆様に献血をいただきました。これは、前年度の献血者数よりも少なくなっていますが、新型コロナウイルス感染症の流行前よりもわずかに増加しております。</p> <p>関東甲信越では、一部献血者数の減少した都県がありましたが、管内1都9県で供給を調整し、必要とする医療機関に血液製剤を届けることができています。</p> <p>これも献血に関わる全ての皆様の御尽力の賜物と考えております。重ねてお礼を申し上げます。</p> <p>現在のところ、様々な方々の御尽力により、必要な血液量を確保できていますが、事前に事務局から送付いたしました資料でお示ししましたがとおり、いわゆる若年層とされている10代から30代の献血者数の減少が続いています。</p> <p>若年層の協力者の減少した分は、50代以上の御協力者に補っていただいている状況が続いていますが、若年層の協力者の確保は、今後も円滑な血液事業の推進に当たっての大きな課題であると認識しております。</p>

	<p>県や埼玉県赤十字血液センターでは、新型コロナウイルスの感染拡大により減少した移動採血車の受入れを確保するべく、昨年8月から高等学校訪問を再開し、高等学校での校内献血の実施を働きかけております。</p> <p>ついては、教育委員会をはじめとする関係機関の皆様に一層の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>また、市町村の公共施設や事業所での移動採血車の受入れを引き続き働きかけておりますので、新たに移動採血車の受け入れが可能な施設に関する情報を提供いただくなど、御協力をお願いしたいと存じます。</p> <p>本日は、今年度の献血状況の報告をさせていただいた後、来年度の埼玉県献血推進計画（案）について御審議いただくことになっています。</p> <p>引き続き、安全な血液を献血により確保し、必要な血液製剤を患者さんにお届けすることができるよう、委員の皆様には忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>結びに、本日お集まりいただきました皆様のますますの御活躍と御健勝を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。</p>
司会	<p>表部長は、この後所用がございます。恐縮ですが、ここで退席させていただきます。</p> <p>議事に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。</p> <p>委員の皆様へ事前に送付しました資料は、</p> <p>資料1：令和5年度 埼玉県の献血状況について</p> <p>資料2：血液事業の動向について</p> <p>資料3：令和6年度 埼玉県献血推進計画（案）の3種でございます。</p> <p>あわせて、本日の次第と出席者名簿を送付しております。</p> <p>お手元に御用意くださるようお願いいたします。</p>
司会	<p>続きまして、オンラインで参加されている委員の皆様をお願いでございます。</p> <p>発言時以外は、音声をミュートにしてください。</p> <p>御意見・御質問がある場合には、画面下にあるリアクションボタンから「手を挙げる」を選択してください。</p> <p>議長が指名した後、ミュートを解除してから御発言ください。</p> <p>発言終了後は、音声を再度ミュートに戻してくださるようお願いいたします。</p>
司会	<p>次に、本日の会議につきましては、事務局記録用に録画させていただいております。あらかじめ御了承ください。</p>
司会	<p>続きまして、本日御出席の委員の皆様のお紹介でございます。</p> <p>画面で本日の出席者名簿を共有いたしますので、御覧ください。</p>

	<p>協議会委員 17 名中、本日は 12 名の委員に御出席いただいております。前回と委員の構成は同じでございますので、恐縮ですが個々の御紹介は出席者名簿に代えさせていただきます。</p> <p>なお、事務局職員につきましても出席者名簿により、紹介に代えさせていただきます。</p>
司会	<p>それでは、ここで当協議会の登坂会長に御挨拶をいただきます。</p>
登坂会長	<p>埼玉県医師会の登坂でございます。</p> <p>本年度の献血推進協議会の開会にあたり、御挨拶を申し上げます。</p> <p>先ほど県の表部長からもありましたとおり、10 代から 30 代の若年層と呼ばれる世代の献血協力者の減少が今後の血液事業を継続していくに当たっての大きな課題であると私も考えております。</p> <p>日本では危機的な少子化が進んでいることもあり、献血が可能な年齢である 16 歳から 69 歳の人口は今後も減少していくことが予想されます。</p> <p>血液は人工的に作り出すことはできず、医療上血液製剤を必要とする患者さんに安全な製剤をお届けするために、その原料となる献血は欠かせません。</p> <p>若いころに献血を経験することにより、その後の献血に対して心の障壁が低くなるだけでなく、「社会に貢献できた」という子供の成功体験の獲得にもつながると思います。</p> <p>県からは高等学校訪問を再開したとの話もありましたので、学校での献血の実施を受け入れていただきたいのはもちろんですが、難しい場合でも献血ルームや街頭に配車されている献血バスでの献血に生徒を誘導できるよう、工夫して高等学校訪問を進めていただきたいと思います。</p> <p>年明けから災害が発生し、ボランティアが注目されています。</p> <p>献血は、身近なボランティア活動です。</p> <p>一人でも多くの患者さんを救うため、献血を継続的に進めていくために、皆さんで献血の未来を考えていきましょう。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございます。</p> <p>協議会要綱第 7 条に「会議は、会長が招集し、主宰する」と規定しております。本日の議長につきましては、登坂会長にお願いしたいと存じます。よろしく願います。</p>
議長 (登坂会長)	<p>それでは、議長をつとめさせていただきます。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>まず、「会議の公開」について、お諮りします。</p> <p>埼玉県献血推進協議会要綱 第 9 条で「協議会の会議は、公開する。</p>

	<p>ただし、出席した委員の3分の2以上の多数で議決したときは、公開しないことができる。」とあります。</p> <p>本日のこの会議を公開としてよろしいでしょうか。</p>
	<p>(「異議なし」)</p>
議長	<p>異議がなければ、公開といたします。</p>
議長	<p>それでは、議事を進めてまいります。</p> <p>本日は、報告事項が2件、協議事項が1件ございます。</p> <p>それぞれ、事務局から報告を受け、皆様から御質問・御意見を頂戴したいと思っておりますが、報告事項については2件の説明後にまとめて、御質問・御意見を頂戴します。</p> <p>はじめに、報告事項の1点目「令和5年度 埼玉県献血状況について」、事務局から報告してください。</p>
事務局 (中山主幹)	<p>埼玉県保健医療部薬務課の中山と申します。</p> <p>私から、令和5年度埼玉県の献血状況について御報告します。</p> <p>大変恐縮ですが、着座にて御説明させていただきます。</p> <p>資料1を御覧ください。</p> <p>資料の目次には、資料の構成を記載しました。</p> <p>はじめに、令和5年度埼玉県献血推進計画の進捗状況をまとめました。このあと項目ごとに説明いたします。</p> <p>資料後半は参考資料として、平成30年度から令和4年度までの5年分の献血状況等の年度別推移データをまとめましたので、後ほど御確認ください。</p> <p>では、資料1の4ページを御覧ください。</p> <p>令和5年11月末までの血液確保量は69,783.62Lです。これは、年度目標であります106,051Lの65.8%となっております。</p> <p>昨年度と同じ時期の実績は、表の右側に記載しましたとおり、69,557Lでしたので、昨年度と比較すると若干増加しています。</p> <p>5ページに移りまして、献血受付け者確保人数です。</p> <p>11月末時点の受付け者数は、今年度は178,475人と、昨年度の178,956人に対して481人減少しておりますが、受付け者数の目標人数を、令和5年度は令和4年度から4,000人少ない280,000人に設定しておりますので、達成率は増加しています。</p> <p>次に、6ページを御覧ください。</p> <p>献血者数と献血ができなかった人数をまとめています。</p>

今年度 11 月末までの献血者数は 160,211 人で、前年度同時期に比べ、732 人増加しています。

表の一番下の欄には、献血ができなかった人数、献血をしようと申し出ていただいたにもかかわらず、血液の比重が足りないなどの理由で残念ながら献血ができなかった方の人数を記載しました。今年度は 11 月末現在 18,264 人で、不適率は 10.2%と、人数割合ともに前年度に比べ減少しております。

続きまして、7 ページ。

こちらで輸血用血液製剤の供給状況を示しております。

赤血球製剤、血漿製剤、血小板製剤ともに供給量が増加していることがわかります。

続きまして、8 ページ、高校生献血について説明します。

高校献血についてですが、今年度は 12 月末現在で実施校数が 69 校、献血者数が 2,654 人、いずれも昨年度同時期より増加しております。

また、表の一番下に赤字で記載しましたが、校内に限らず、県内の献血ルームや献血バスで献血に協力をしてくれた高校生が 4,771 人と昨年度同時期と比べて 162 人増加しております。

引き続き、高校生に対して、献血への協力を働きかけて参りたいと思っております。

9 ページには、平成 20 年度から令和 4 年度までの高校生献血者数の推移を載せています。

全国的に高校生献血者数は減少しておりますが、埼玉県の高中生献血者数は全国上位で推移しており、令和 4 年度は全国 3 位でした。

続きまして、10 ページを御覧ください。

今年度の献血推進方策の実施状況について一覧表にしました。

以降、各事業について報告をいたします。

資料 11 ページを御覧ください。

まず、愛の血液助け合い運動についてです。

毎年 7 月に全国各地で行われている啓発活動ですが、本県においては、国の運動期間よりも 1 か月延長し、7 月から 8 月までの 2 か月間で実施しており、次の 12 ページに移りまして、この運動期間中の 8 月 8 日に「第 54 回彩の国さいたま愛の血液助け合いの集い」を開催し、献血功労

者への感謝状の贈呈、献血推進ポスターコンクールの表彰などを行いました。

次に、13 ページに記載しましたとおり、SNSを使用した広報を薬務課と血液センターで実施しています。

県薬務課では、X（旧ツイッター）のアカウントを開設し、献血に関する情報などを投稿しています。

血液センターでは、X、フェイスブック、インスタグラムを運用中です。

14 ページには、市町村との連携を記載しました。献血者確保事業に要する経費として、県から補助をしております。

15 ページからは、若年層献血の推進について、記載しています。

まず4月から6月にかけて、新社会人献血キャンペーンを実施しました。

これは新社会人となった方を対象として、献血を促すことを目的としております。

次のページに移ります。

毎年実施しております、献血推進ポスターコンクールです。

今年度は、県内の中学校52校から434作品の応募がありました。

知事賞最優秀賞受賞作品につきましては、愛の血液助け合い運動のポスターなどに活用させていただいております。

続きまして17 ページに、「初回献血！お友達＆ご家族紹介キャンペーン」について、記載いたしました。

これは、初めて献血する方に対し、献血機会を提供するために9月から11月に実施しました。

次に18 ページに参ります。

「はたちの献血キャンペーン」は、1月から2月にかけて、全国一斉に実施しているものです。

今年度も、県内の市町村の御協力のもと、啓発品を成人式の会場等で約4万個配布しました。

19 ページに参りまして、卒業献血キャンペーンでございます。

このキャンペーンは、高校を卒業する生徒を対象に、2月から4月に

かけて実施する予定としています。

次に、20 ページ、高校生献血カードですが、これは資料の右側にある写真でお示したようなカードを、県内の高校に在学する1年生全員に配布いたしまして、高校在学中に献血に協力して、スタンプを集めていただくと、スタンプ数に応じて記念品をプレゼントする事業でございます。

21 ページに参りまして、血液に関する出前講座、これは依頼のあった学校に血液センターから講師を派遣いただき、献血に関する理解を深める講演を行っています。

次に、22 ページの高校訪問は、今年度から再開しました事業です。

若年層の献血者を確保するため、高校内で献血を実施し、高校生に献血機会を提供することで、献血の重要性について啓発することを目的とし、県保健所、市町村、血液センターの三者が合同で高等学校を訪問しています。

また、23 ページに記載しましたとおり、同様にコロナ禍の期間中に見合わせておりました関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所見学につきましても、今年度は見学者を受け入れております。

次に、その他の献血の普及啓発の取組について、御報告いたします。

24 ページに記載しましたクリスマス献血キャンペーンは、血液センター主催の事業となります。

献血者数が減少しがちな冬に、埼玉西武ライオンズの選手や彩の国けんけつ大使を招いて、献血に関するトークイベントを実施するなどして、献血者の確保を図りました。

25 ページには、中高年層向けの事業であります「シニア 60～64 初回献血キャンペーン」について記載しました。

60 歳から 64 歳までの間に初めて献血する方を対象に、1 月から 3 月まで実施しております。

次に、安全な血液の安定供給の確保の取組について、御報告します。

資料 26 ページを御覧ください。

複数回献血の推進と移動採血場所の確保を行いました。

	<p>最後になりますが、27 ページを御覧ください。</p> <p>埼玉県合同輸血療法委員会の活動を紹介させていただきます。</p> <p>同委員会では、医療機関における血液製剤の適正使用に向けた調査研究を行っております。</p> <p>3月2日には、輸血療法の技術向上を目的とした講演会として、第15回埼玉輸血フォーラムが開催されます。</p> <p>以上で今年度の埼玉県の献血状況について、県からの報告を終わります。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>御質問・御意見については、次の報告の後にまとめて伺います。</p> <p>続きまして、報告事項の2点目「血液事業の動向について」、事務局から報告してください。</p>
血液センター (中川所長)	<p>埼玉県赤十字血液センターの中川でございます。</p> <p>それでは私の方から、血液センターでの血液事業の状況について、御説明申し上げます。</p> <p>座ったままの説明で失礼いたします。</p> <p>まず、血液製剤の供給状況についてですが、赤血球製剤につきましては、年々増加傾向にあります。</p> <p>血小板製剤につきましては、年ごとにばらつきはあるものの供給は横ばいです。</p> <p>血漿製剤につきましては、昨年度は前年度に比べ、減少傾向となっております。</p> <p>赤血球製剤の月別の供給状況ですが、医療機関の需要は増加傾向にあり、同じく血小板製剤も増加傾向にあります。</p> <p>血漿製剤につきましては、月による変動が大きいのですが、平均しますと昨年度よりも多く供給をしています。</p> <p>続いて、献血者数の推移です。</p> <p>全血献血者数につきましては、増加しています。</p> <p>血小板献血者数は、平成のころから比べますと、人数としては減っていますが、1人の献血者から多くの血小板をいただく方向に切り替わりましたので、医療現場への供給は問題なくできております。</p> <p>血漿献血者数は、コロナ禍にありながら令和2年度は多くの皆様に御協力いただきましたが、人数は減少しており、少し厳しい状況になっております。</p>

続いて、献血者数を年代別に見てみますと、県内でも全国的にも50代以上の御協力者数は伸びております。

しかし、20代から40代の御協力者が減っています。10代は、高校内献血が増加していることに伴い、若干回復しています。

月別の献血者数ですけども、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い、血液センターでも様々なイベントを再開することができましたため、全血献血については令和4年度を超える献血者数を確保できているところです。

血小板と血漿献血は、前年よりも献血者数が減少している状況ですが、医療機関へ供給するための必要量は確保できております。

続いて高等学校における校内献血の状況です。

実施校数は、令和2年度に急激に減少してから、徐々に回復しつつあるのですが、コロナ禍前までには回復していません。

また、校内献血に協力していただける生徒さんの数は減少しています。

若年層の献血協力状況についてまとめました。

年代別に見ますと、10代は高等学校での校内献血の増加に伴い、増加傾向にありますが、20代、30代は減少傾向にあります。

続きまして、血液の安定確保に向けた血液センターの取り組みについて、御説明します。

まず、行政との連携として、資料22ページに3点あげております。

まず、市町村における継続的な献血協力の呼びかけをお願いしています。

続いて、広報紙やSNSでのPRを続けております。

各種キャンペーンを開催することで、献血の普及啓発を行っています。

続いて、血液センターの取り組みとしまして、資料23ページに掲載しました。

我々は、新規団体の獲得に努力しておりまして、今年度は11月現在で34団体から新たに協力をいただいたところです。

また、Jリーグのメインスポンサーである明治安田生命から全国的な取り組みとして協力をいただいております。埼玉県内のJリーグチーム、浦和レッズ、大宮アルディージャのホームゲームにおいて、普及啓発や献血バスの受入れによる献血者確保に積極的に御協力をいただいております。

Jリーグに限らず、プロスポーツ団体に加盟するチームでは、SNSで多くのフォロワーをお持ちです。その訴求力を利用させていただくために、各種プロスポーツ団体に協働して献血の啓発ができないか血液センターから働きかけを行っております。

資料には、その一例として、埼玉ワイルドナイツ、浦和レッズ、大宮アルディージャ、埼玉西武ライオンズとのイベントについて、掲載いたしました。

また、昨今のアニメ人気を受けまして、埼玉県の薬務課や観光課にお力添えをいただき、県内を舞台としたアニメ作品とのコラボキャンペーンを実施し、大変好評をいただいたところです

特に、映画「翔んで埼玉」のコラボキャンペーンは、映画の舞台である埼玉県と滋賀県の血液センターで協働して行い、大変な反響をいただき、キャンペーン初日である11月23日は、県内の献血ルームの予約がほぼ満員となりました。

続いて、10代を中心とする若年層の啓発については、全国統一キャンペーンを実施するほか、学生献血推進連盟による献血キャンペーンも再開され、啓発活動が行われています。

それから、小・中・高校生向けの血液の出前講座です。以前は、大人数の講座を多く開催していましたが、最近はより近い距離の授業つまり参加者が少人数の講座の開催が増えています。

続いて、SNS、メディアを活用したPRです。

公式SNSによる発信を積極的に行っておりまして、献血をより親しみやすいものにできるように取り組んでいます。

このほかにも、プレスリリースを適宜行い、報道機関に取材いただくことで、情報を広めていただけるよう努めております。

最後に、令和5年度の全血献血者数を月別にまとめた表を資料33ページに掲載しました。皆様のお力添えと各種取り組みの結果、必要な数量を確保できております。

需要動向に合わせて、SNSを積極的に活用し、今後も県民の方々に献血の理解をいただけるよう、引き続き普及啓発活動を行っていきたいと考えております。

	<p>以上です。</p>
議長	<p>報告事項「令和5年度 埼玉県献血状況について」及び「血液事業の動向について」について、事務局から報告を受けました。</p> <p>ただ今の説明について、御質問、御意見はございますか。</p> <p>(意見なし)</p>
議長	<p>次に、「令和6年度 埼玉県献血推進計画(案)」について、御協議をお願いします。</p> <p>まず、事務局から説明をしてください。</p>
事務局 (岡地課長)	<p>薬務課長の岡地でございます。</p> <p>資料3 令和6年度埼玉県献血推進計画(案)につきまして、御説明いたします。</p> <p>失礼して着座にて進めさせていただきます。</p> <p>まず、都道府県が作成する献血推進計画の位置づけにつきまして御説明いたします。</p> <p>資料3の「1 はじめに」に計画策定の背景が記載されております。</p> <p>平成15年7月に施行された「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第10条第5項に基づき、都道府県は毎年度、翌年度の献血の推進に関する計画を定めなければなりません。</p> <p>このことから、埼玉県内において、県民の献血への理解を深め、採血事業者による献血の受入れが円滑に実施されるよう、令和6年度の献血推進に関する計画を「令和6年度埼玉県献血推進計画」として策定しようとするものです。</p> <p>本日の協議会では、資料3にお示ししました「令和6年度埼玉県献血推進計画(案)」につきまして、御協議をいただきたいと存じます。</p> <p>続きまして、本計画(案)の骨子について御説明します。</p> <p>資料3をご覧ください。</p> <p>大項目として、「1 はじめに」、「2 献血確保目標」、「3 具体的な方策」、「4 その他重要事項」の4項目を定め、その下に小項目を定めています。</p> <p>また、別紙には市町村別の献血受付者の目標人数を定めています。</p> <p>それでは、大項目ごとに説明をまいります。</p> <p>1 はじめに</p> <p>この項目には、計画策定の背景、基本的な考え方、計画の期間が記載されています。</p>

この計画は、国、市町村、採血事業者である埼玉県赤十字血液センター及び献血関係団体などと県が連携を図り、地域の実情に応じた献血推進活動を行い、より多くの県民の皆様へ献血の御協力をいただけるようにするための道しるべと考えております。

地域の実情を献血推進活動に速やかに対応させるため、単年度計画としております。

## 2 献血確保目標

この項目には、献血により確保すべき血液の目標量とこの目標量を確保するために必要な献血受付け数を定めています。

まず、献血により確保すべき血液の目標量です。

資料3の2ページをご覧ください。

令和6年度に献血により確保すべき血液の目標量は、

全血献血が68,274L（令和5年度より292L増）、

成分献血が39,286L（令和5年度より1,217L増）としております。

この目標量は、過去3年間そして本年度の血液製剤の供給状況や医療機関の増床などの動向、また関東甲信越ブロック内の採血施設数を踏まえて算定しております。

令和5年度は前年度よりも若干目標量が減少していましたが、令和6年度は成分献血を中心に目標量が若干増えています。

続きまして、血液の目標量を確保するために必要な献血受付け数についてです。

資料3の3ページをご覧ください。

令和6年度の献血受付け数は、271,000人（令和5年度より9,000人減）を目標としております。

内訳は、全血献血の受付け者が195,000人（令和5年度より5,000人減）、成分献血の受付け者が76,000人（令和5年度より4,000人減）としております。

さらに、全血献血につきましては、移動採血車（献血バス）と固定施設（献血ルーム）での受付け者に分けられます。

移動採血車での受付け者を95,000人（令和5年度より5,000人減）、

固定施設での受付け者を100,000人（令和5年度と同じ）としております。

移動採血車の受付け数は、市町村ごとに目標人数を定め、資料3の10ページ以降に別紙として添付しております。

最近の献血の傾向から、献血に御協力いただけなかった方の割合が減少していることもあり、令和6年度は、受付け者の算定方法を見直しまし

た。

目標人数が減少している市町村が多いですが、必要な献血量が減少したわけではなく、地道な献血推進活動により、確実に献血に御協力いただける方が増えているために目標人数を絞ったとお考えいただきたいと思えます。

なお、市町村ごとの目標人数につきましては、本日の協議会終了後、県の献血推進計画として各市町村に通知する予定としています。

### 3 具体的な方策

2に示した目標を達成するための具体的な方策としまして、資料3の4ページから記載しています。

令和6年度も太字で記載しました5つの柱に従い、事業を進めてまいります。

#### (1) 献血の普及啓発と献血組織の充実

例年実施しております「ア 愛の血液助け合い運動」に加え、「イ 広報の強化」として、薬務課及び血液センターで運用しているX（旧Twitter）などSNSを積極的に活用した事業を展開してまいります。

また、「ウ 市町村との連携」をさらに進め、市町村広報紙に市町村で実施する献血日時の掲載のほか、県が実施するキャンペーンやイベントなどの情報も掲載いただけるよう依頼します。

#### (2) 若年層献血の推進

「ア 次世代の献血者の育成」として、

来年度も、献血を身近に感じてもらうため、中学生を対象に献血推進ポスターコンクールを引き続き実施いたします。

また、小学校から利用できる血液の出前講座や献血セミナーなどを積極的に活用いただくよう、働きかけを進めてまいります。

また、平成30年度に制作しました「献血体験動画」の視聴機会の拡大を図るよう努めてまいります。

「イ 若年層向けキャンペーンの実施」は、来年度も継続して実施します。

10代から30代をターゲットとした「初回献血！お友達＆ご家族紹介キャンペーン」については、今年度再開しましたが、来年度も引き続き実施してまいります。

「ウ 高校生献血の推進」でございますが、  
高校生献血の推進を図るため、引き続き、教育委員会等の関係機関と連携し、校内献血や血液に関する出前講座等を積極的に実施するほか、来年度も、「高校生献血カード」を県内全高等学校の新1年生に配布し、複数回献血への理解と協力を求めてまいります。

「エ 学生献血推進ボランティアとの連携」では、  
埼玉県学生献血連盟の皆様と意見交換を行い、献血を促進したい若年層の方から、業務に生かせるような御意見をいただきたいと考えています。

また、県内の大学の学園祭に積極的に移動採血車を配車して、献血の協力を求めます。

「オ 県内プロスポーツチームとの連携」では、  
昨年度も埼玉西武ライオンズ、埼玉ワイルドナイツ、浦和レッズなど様々なプロスポーツチームと連携して献血イベント等を実施しましたので、引き続き連携を図ってまいります。

また、昨年12月には、一般社団法人埼玉県eスポーツ連合が献血サポーターに登録されました。新しいスポーツ団体とも連携し、若年層への献血機会をより多く提供してまいります。

### (3) その他献血の普及啓発

広い年齢層を対象とした普及啓発も欠かせないものとなっています。

ショッピングモールや大きなイベントでの献血の実施など、一般県民向けのイベントも積極的に実施してまいります。

また、現在の血液事業は、中高年層の献血御協力者により安定的に確保されていると言えますので、引き続き、中高年層への献血の正しい知識の普及啓発を目的としたシニアキャンペーンを進めてまいります。

### (4) 安全な血液の安定供給の確保

複数回献血者の推進を図り、事業所訪問などにより献血者の新規開拓を行います。

また、予約献血の推進により、献血の所要時間短縮及び血液の安定確保を図りたいと考えております。

さらに感染症のまん延下には、職員の健康状態の管理及び献血協力者への手指消毒や体温測定の徹底により、献血会場の良い衛生環境の保持に努めてまいります。

	<p>(5) 適正使用の推進</p> <p>埼玉県合同輸血療法委員会では、血液製剤をより安全に適切に使用するため、県内の医療機関等に対し調査等を実施しています。</p> <p>今後も輸血療法の向上のため、この委員会活動を活性化し、「埼玉輸血フォーラム」の場で調査結果等を各医療機関にフィードバックしてまいります。</p> <p>4 その他重要事項</p> <p>災害時を含め血液製剤不足時等の対応を行い、医療に必要な血液の確保に努めてまいります。</p> <p>本日は、委員の皆様のそれぞれのお立場からの貴重な御意見をいただきたいと存じます。</p> <p>以上で令和6年度埼玉県献血推進計画（案）の説明を終わります。</p>
議長	血液センターから、来年度の重点とする施策等で補足説明はありますか。
血液センター （中川所長）	<p>補足説明ではないのですが、会場の皆様には赤十字の封筒の中にこのたび日赤本社が作成しました小学校4年生向けの献血に関するパンフレットをお配りしております。</p> <p>これは、文部科学省や厚生労働省の監修を得まして、来年度早々に全国の小学校に配布する予定で現在準備を進めているものでございます。</p> <p>小学校4年生と言えば、まだ献血可能年齢である16歳までまだ間がありますけれども、小さなころから献血に対する理解を深めていただきたいと考え、配布することが決まったものでございます。</p> <p>以上です。</p>
議長	<p>ただ今の説明について、御質問、御意見はございますか。</p> <p>はい、では、真中委員お願いします。</p>
真中委員	<p>埼玉県学生献血推進連盟の真中と申します。</p> <p>「資料3 令和6年度埼玉県献血推進計画」でお伺いしたことがあります。</p> <p>計画では、若年層向けの対策が多く記載されています。</p> <p>しかし、資料1の献血者の推移を見ますと、50代以上以外の献血者数は徐々に減少していることがわかるかと思えます。</p> <p>30代、40代の方はまだ献血を長く続けていただける方だと思うので、その年代の方に的を絞った対策というのは何かお考えでしょうか。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局から回答をお願いします。</p>

<p>血液センター (武井部長)</p>	<p>血液センターの武井でございます。 30代、40代を対象とした対策としましては、事業所献血の協力事業所を増やしていきたいと考えております。 血液センターとして、新規開拓の企業団体数の目標を設けておりますので、その目標を達成できるよう勧めてまいります。 なお、事業所献血につきましては、資料3の7ページに記載しております。</p>
<p>事務局 (岡地課長)</p>	<p>薬務課長の岡地でございます。 県としましては、30代、40代に特化したキャンペーンはやっておりませんが、血液センターと協力しまして、事業所献血の推進や人が多く集まる商業施設でのキャンペーンは積極的に実施していきたいと考えています。</p>
<p>真中委員</p>	<p>もう1点いいですか。 SNSの活用ということも計画の中に記載されていたのですが、SNSは特にフィルターバブルをかけて、ユーザーが見たいものだけを表示する傾向があると思うんです。 SNSを活用して情報を積極的に発信していくのもいいと思うのですが、やはり情報は見ていただかないと意味がない。 そこを打破していくためにも、インフルエンサーとか今回コラボしたプロスポーツチームの活用などをお考えいただいているんだと思うんですが、今はVtuberだったり、YouTuberっていうところを活用していくのを視野に入れてみてはどうかと思います。</p>
<p>事務局 (岡地課長)</p>	<p>貴重な御意見、ありがとうございます。 県としましては血液センターとしましては、情報を発信しても見てもらえないというのは大変困ったことだとは思っています。 先ほど説明させていただいた献血動画は、もう昔の話なのですが内容としてはまだ活用できるとは思っていますので、これまで以上に視聴機会の拡大に努めてまいりたいと思います。 また、県の方で広報アンバサダーと称して、インスタグラマーに広報をお願いしています。その方々から今度献血について広報したいという御提案がありまして、現在担当課と打ち合わせを進めております。 地道に活動していくことで、献血が広がっていけばよいと考えております。</p>
<p>議長</p>	<p>Web参加の委員はいかがですか。 では、根本委員をお願いします。</p>
<p>根本委員</p>	<p>埼玉県薬剤師会の根本でございます。 小・中・高校生を対象にした血液の出前講座についてお伺いします。 この出前講座はどのように実施されているのか、広報や講師の先生に</p>

	<p>についても教えてください。</p>
事務局 (大林主査)	<p>出前講座は、教育委員会等を通じて、各学校へ毎年度お知らせをしています。</p> <p>各学校から県にお申込みいただき、県が血液センターに講師の派遣をお願いして実施しているところです。</p> <p>なお、講師につきましては、血液センターの顧問である血液内科の医師をお願いしています。</p> <p>講師については、血液センターの方で補足があればお願いします。</p>
血液センター (中川所長)	<p>講師は、現在血液センターの顧問をお願いしておりますが、私の3代前の所長です。</p> <p>非常に血液に関する造詣の深い講師であると思っています。</p>
議長	<p>他に御質問等はございませんか。</p> <p>ないようですので、「令和6年度 埼玉県献血推進計画(案)」について御承認いただけましたら、会場参加の方は拍手、オンライン参加の方はリアクションボタンでお知らせください。</p>
	(承認)
議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、御承認いただきましたので、この計画に沿って令和6年度の血液事業の推進を図ってください。</p> <p>では、これを持ちまして、議事を終了します。</p> <p>その他、事務局から何かありますか。</p>
岡地課長	ありません。
議長	<p>まだ、時間もあります。せつかくの機会ですので、先ほども御意見をいただきましたけれども、本日、学生献血推進連盟から2名の委員に御出席いただいております。</p> <p>せつかくの機会ですので、連盟の活動状況や皆さんの目から見た献血の啓発など、お話しいただけますか。</p>
小池委員	<p>はい、埼玉県学生献血推進連盟 副会長の小池です。</p> <p>私たちは普段、特に若年層へ向けて、献血をいかに進めていくかを話し合ったり、また、イベントを企画したりといった活動をしています。</p> <p>私が特に今年度の活動で感じたことは、献血だけを押し付けるのではなく、若者が興味を持っているようなこともプラスして、献血と組み合わせ進めていくことが、若者の興味を引く上では非常に効果的だなということです。</p> <p>12月に開催されたクリスマス献血キャンペーンでは、埼玉西武ライオンズとコラボしてイベントを進めさせていただきました。</p>

	<p>普段のイベントでは、献血に特化して進めていることもあり、献血のリピーターの方ばかりが参加することになってしまうというようなことが多いです。</p> <p>ですが、西武さんのイベントでは、献血のリピーターの方だけでなく、グッズのプレゼントがもらえる抽選券のために、献血をしたことのない人たちもたくさん参加してくださいました。</p> <p>私たちが企画するイベントも、若者が興味を持つものと組み合わせて進めていき、少しでも若年層の献血者数が増えるように協力していきたいと思います。</p>
真中委員	<p>はい、埼玉県学生献血推進連盟 副会長の真中です。</p> <p>私は、昨年度から連盟の活動に参加していますが、イベントなどを見ているとやはり若年層はイベントに参加する数がとても少ないということを感じています。</p> <p>何があれば、参加してくれるのかなと考えたときに、やっぱり献血自体を知らないことで、必要以上に献血を避けているのではないかと思います。</p> <p>そのために、情報発信を進める必要があると思っていますが、その情報をどう見てもらうか、連盟でもSNSをやっていますので、良い方法を探していきたいと思います。</p>
登坂議長	<p>小池委員、真中委員、貴重な御意見をありがとうございました。</p> <p>それでは、今後、血液事業や献血計画の実施にあたって、委員の皆様のお協力が必要と存じますので、今後とも皆様のご支援・御協力を賜りますようお願いいたします。</p> <p>これを持ちまして、本日の議事を終了し、議長の任を降ろさせていただきます。</p> <p>円滑な議事の進行に御協力いただき、ありがとうございました。</p>
司会	<p>登坂会長、ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様には、貴重なお時間にもかかわらず、御協議をいただきました。お礼を申し上げます。</p> <p>今後とも、血液事業推進のため、お力添えを賜りますようお願いいたします。</p> <p>以上を持ちまして、「令和5年度 埼玉県献血推進協議会」を終了いたします。</p> <p>オンライン参加の皆様は、接続を切断して御退室をお願いいたします。</p> <p>会場参加の皆様は、お気をつけてお帰りくださるようお願いいたします。</p>